

中学校 美術科 学習指導案

指導者 森長 俊六

- 日時** 令和2年12月4日(金) 第2限 9:40~10:30
- 場所** 美術教室
- 学年・組** 中学校1年C組42人(男子22人 女子20人)
- 題材** 絵文字を楽しむ
- 目標**
1. 伝えたい内容や意図を適切に表現できる。(知識及び技能)
 2. 豊かな発想で多くの構想を練る。(思考力, 判断力, 表現力等)
 3. 絵文字に関心を持ち, 楽しく取り組もうとする。(学びに向かう力, 人間性等)

指導計画(全8時間)

- 第一次 課題の理解とアイデアの創出 1時間(本時)
- 第二次 アイデアの深化 2時間
- 第三次 下描き, 着彩 4時間
- 第四次 鑑賞会 1時間

授業について

絵文字は, 文字の一部を絵に置き換えたり, 文字全体を装飾・変形させたりして文字の持っている意味やイメージを楽しく見る人に伝えようとするものである。自分の思いも込め, 見る人にもわかりやすく伝える力を楽しみながら身に付けることができる題材である。

このクラスは, 中学生になって靴のデッサンを行い, 形をきちんと捉える学習を行った。その後, 色彩に関する学習を行い, デザインセットを使って平面構成を行った。二学期に入ってから, ピクトグラムデザインを行い, 「和」や「伝統」を意識しながら粘土で和菓子を制作した。それぞれ集中して真剣に取り組むことができる。しかし毎回「アイデアが浮かばない」とか「もうこれでいい」と言って構想を練ることに対して追究の甘い生徒が見受けられる。この傾向は, このクラスに限ったことではなく, 他の中学生や高校生においても構想段階でアイデアを膨らまそうとしない, いや, アイデアが浮かんでこないという生徒は少なくない。その点, 漢字を元に発想することができるこの題材は, スタートの材料が身近で豊富である。

最初に先輩たちの作品を鑑賞させ, それらの作品がどのような課題として制作されているか考えさせる。その趣旨を理解した上で, 各個人が作者の工夫に目を向け, 次に他者との交流を通して見方や感じ方を深めさせる。その後, 作品制作へとすすむ。構想段階では他者との交流も行うが, まずは自問自答しながら構想を練ることに重点を置く。

本時の目標

1. 伝えたい内容や意図を適切に表現できる。(知識及び技能)
2. 課題の趣旨を理解し, 豊かな発想で多くの構想を練る。(思考力, 判断力, 表現力等)

本時の評価規準(観点/方法)

1. 伝えたい内容や意図を適切に表現しようとしている。(知識及び技能)
2. 課題の趣旨を理解し, 豊かな発想で多くの構想を練ろうとしている。(思考力, 判断力, 表現力等/ワークシート)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
課題の理解 (10分)	○参考作品を見てどのような課題か考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">興味をもつ</div> 課題 ・漢字の一部を絵に置き換えて漢字の意味をより強調する。 条件 ・漢字部分はレタリングする。 ・色数は制限無し、など	○参考作品を見せ、どのような課題で、どのような条件の元、制作されているか考えさせる。 ・漢字の意味を強調する(漢字への思いを込める)
個人での鑑賞 (5分)	○3～4人のグループに分かれ、参考作品とワークシートを受け取る。 ○個人で鑑賞する。 ・作者の工夫を造形的視点も踏まえて鑑賞する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">読み取る</div>	○造形的な視点を促す。 ・書体、色、形、構成、バランス ・台紙の色にも目を向けさせる。
グループでの鑑賞 (10分)	○課題や制作条件を踏まえ、グループ内で感想を述べ合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">話しあう</div>	・一人では気付かなかったことに気付き、他者との意見の交流を通して見方や感じ方を深めさせる。 マスクは外さない 大きな声で話さない 気づきをメモする
全体での鑑賞 (10分)	○グループで鑑賞した内容を全体に発表する。	
アイデアの創出 (10分)	○ワークシートに構想を練る。 ・思いつく漢字を絵文字にする。 ・話し合いの成果を踏まえアイデアをふくらませる。 ・文字(偏や旁)と絵の組み合わせを再考する。 ・書体や絵柄の組み合わせでより明快にする工夫を考える。	・できるだけたくさんアイデアを考えさせる。 ・品詞(名詞、動詞、形容動詞・・) ・配色もイメージしながら考えさせる。 ・直接的な表現もよいが、少し考えさせるものもよい。
まとめ(5分)	○課題や条件の確認	
準備物 生徒：教科書(日本文教出版)、副読本(秀学社)、クロッキー帳、漢字辞典 教師：参考作品、ワークシート、電子黒板、書画カメラ、大型TV		